

墨水会だより

(旧府立第七中学校) 都立墨田川高校全日制同窓会 発行責任者 泉 妻 秀 一



撮影 井上 常一

母校校歌の作詞者である江戸っ子大文豪の幸田露伴先生もこよなく愛した東京の下町を流れる隅田川は、東京が日本の中心となり都市の繁栄が進むと共に、新しい土地を増やす目的で、明治中期より東京湾の埋め立てを進めました。

江戸時代には佃島あたりが隅田川河口でありました。

東京市は、明治中期より月島、勝どき、豊海と順次埋め立てられ、現在では浜離宮庭園の東側あたりが河口となり東京湾に注いでいます。

今回の表紙写真は浜離宮恩賜庭園内部の東側一帯に展開する菜の花畑より庭園の対岸である豊海町方向を撮影した写真です。

対岸にそびえる高層マンションの姿がなければ房州の花畑といってもおかしくない景観ですが、前方に高層ビルが映り都市庭園の姿であることがわかんと思います。

浜離宮恩賜庭園は、江戸初期の承応3(1654)年徳川4代将軍家綱の弟松平綱重の別邸として造園されました。

江戸時代は浜御殿と呼ばれ徳川家の別邸として鴨猟や月見の宴などに用いられました。

明治維新後には皇室の離宮となり、第2次大戦後下賜され浜離宮恩賜庭園として新発足しました。

25万㎡(7万5千坪)と広大な回遊式庭園には、目の前の東京湾から海水を引き入れることが出来、都内唯一の潮入り庭園とし

て名高く、国の特別史跡と特別名勝に指定されています。

庭園内には、宝永6(1709)年6代将軍家宣の時に植樹されたとする松の木が手入れ良く300年を経た現在も元気良く根づいており一見に値すると思います。

回遊式の庭を歩くと、四季折々に咲く花々を鑑賞することが出来るでしょう。

園内にある季節毎に花を付ける植物は、春は梅、菜の花、桜(特に種々の八重桜が見事)、初夏の牡丹、芍薬、紫陽花、秋には秋桜、菊などほとんど一年を通してなんらかの花を見ることが出来ると思います。

また離宮の立地は海辺にあるので多種の海鳥の飛来も多く、バードウォッチングなどにも格好の場所です。

庭園内の池に浮かぶ中島には茶屋があり池や花を愛でながら抹茶や菓子を戴くことも出来ます。

広大な庭園の周囲は築地川や堀とで囲まれ海水が自由に出入り出来るので、時にはボラの大量が迷い込む光景を見ることが出来ます。

庭園西側は汐留の高層ビル群がそびえ立ち、春にはそのビルの裾に八重桜が一行に長く開花しピンクの帯となり見事な景観です。



ご挨拶

墨水会会長 墨田川 8回

泉妻 秀一

墨水会会員の皆様におかれましては、お健やかに新しい年を迎えられたことと拝察申し上げます。

さて、昨年の会報22号で会長就任のご挨拶を申し上げたばかりの感が有りますが早くも一年経過し、墨水会だより第23号をお届けするときに迎えました。会報は毎年母校の卒業式に間に合うよう3月1日の発行としているのですが、本年は、5年毎に発行する会員名簿の発行年と重なりますので、一か月ほど早めに発行致すことに成りました。宜しくご一読をお願い致します。

この一年を顧みますと、世界ではイスラム国問題、ウクライナ問題、アフリカでの部族闘争、中東・パレスチナ問題、中国の海洋進出、イラン・北朝鮮の原子力開発、シリア・アフリカ難民、サイバー攻撃問題、大同土の盗聴問題、各民族の独立闘争、各種テロ活動・等数え上げたらきりが有りません。世界中が誠に不安定な政治情勢と成っております。

経済面では、多くの国々が財政的窮乏を訴え世界経済全体を非常に不安定なものにしております。環境面でも地球温暖化の影響ともいわれる異常気象により世界中が観測史上初めてと言われる様な台風や洪水、極端な熱波・寒波にさらされ多くの被災者を出しています。

国内を見ると4年前の東北大地震・原発事故からの復旧は遅々として進まずそれに加えてこの一年でも台風や洪水により多くの被災者を新たに生み出しております。

この様な世情の中ですが、我が母校は15年前から進めてきた学校改革で大きな成果を上げつつあります。昨27年春には卒業生の85%が現役

で大学に進むという大きな花を咲かせました。5年前の23年春と比較しますと、国公立と早慶上智進学が10名から43名に、有名私立大学・難関上位10校進学が71名から155名に増加しました。こうした勉学と並行して体育祭、文化祭、各種音楽祭も以前以上に活発に行われ、水泳部、ボート部、吹奏楽部等の活躍も関東大会、全国大会へと進出し学校全体の活力を上げる活躍が続いています。

在職中、母校発展のため大変な努力をされ、上記の通りの実績を上げられた柴田校長先生は昨年3月31日を以て定年退職され、新たに上村肇先生が、23代校長として着任されました。先生は墨水会会則規定により名誉会長に就任され平成27年4月1日よりその職務について居られます。

学校行事では4月の入学式に始まり、5月には体育祭、9月には文化祭、2月には合唱祭、3月は卒業式と続きます。これらの学校の催しには墨水会からも役員が出席し、生徒諸君の日頃の活動を拝見しております。また毎年卒業式終了後の3月下旬に葛飾シンフォニーヒルズにて吹奏楽部のスプリングコンサートが開催され卒業生も参加して、大変賑やかで、素晴らしい演奏会が開かれます。OB各位のご来場をお待ち致します。

今回、墨水会名簿を発行しましたが次は5年後と成ります。次の5年間はどのように推移するか大変気になります。すぐにやって来るラグビーワールドカップは五郎丸人気も有り一つの社会現象としての盛り上がり期待出来ますし、4年後のオリンピック等楽しみなことも有りますが、65歳以上の高齢者が人口の3分の1

を超えたり、少子化による人口減少による経済活動の停滞、昨年末国会を通った集団自衛権に関する新安保体制による自衛隊海外派遣のリスク、太平洋地域経済へのTPP合意の影響、国内農業・畜産業の行く末、マイナンバー制度定着までの混乱等々我々に少なからず影響を与える諸問題が山積みですが、私ども墨水会としてこれから取り組むべき課題は、従来と変わることなく、同窓会本来の役割である次の2点に絞られます。

①母校の各種活動を美汀会・墨汀会の皆様と協力して側面からバックアップすること、

②会員相互の親睦と融和を計ること、

又、これに加えることとして、学校・美汀会の皆様と協力して運営しております軽井沢の「七生寮」、館山の「楽水寮」の二寮の維持管理を今後どうして行くかということが有ります。昨年夏より「二寮運営検討委員会」を立ち上げ、二寮の抱えている問題点維持管理に必要な経費、現地軽井沢・館山での近隣との関係、開寮中の賄い等の管理責任者、等の掘り下げに加えて、二寮のPR、開寮期間の変更等検討を開始しておりますが、まずは皆様にフルに活用して頂くことが運営に一番寄与致しますので是非とも皆様のご家族、お知り合いの方々のご利用をお願いする次第です。二寮とも素泊まり3,000円(小学生以下3歳以上2,000円)と非常に安くなっております。最近人気の軽井沢は民宿でも一泊1万5千円、ホテルでは3万5千円から1万円、朝食800円です。

この二寮は、一般財団法人「七生会」が、都立墨田川高等学校の郊外教育施設として、「中軽井沢」と「房総館山」において運営しておりますが、卒業生・保護者・一般の方々(関係者の紹介が必要)にも広くご利用頂いております。

中軽井沢は今なお超一流の別荘地です。古くより文人墨客にこよなく愛されており、句碑や歌碑が多数散見されます。そんな一等地の中に我々の「七生寮」が有ります。近くには有名人も多数訪れる星野リゾートにあるトンボの湯や塩壺温泉という名湯が有ります。遊び所としての観光ポイントも、鬼押し出し、海野宿、追分宿、軽

井沢銀座、千ヶ滝、雲場池、旧碓氷峠と遊覧歩道、野鳥の森、白糸の滝、アウトレット、ハルニレテラス、等々数え上げたらきりが無いくらいです。最近女性愛好者が急増しているゴルフコースも近いところに多数あり、プレイ料金も東京近郊よりかなり安価で済みます。

館山「楽水寮」そこは造礁サンゴの北限地、波穏やかな絶好のプライベートビーチです。夏は海水浴、マリンスポーツ、春・秋・冬は釣り、又はフラワーラインをドライブしたり、名所旧跡ぶらり旅もおつなものです。又近くには良いゴルフ場もあり一年中プレイが可能です。遊び所としての観光ポイントとしては、城山公園、館山市立博物館、洲崎灯台、館山ファミリパーク、県立安房博物館、白浜フラワーパーク、南房パラダイス、観光定置網、水中観光船、平砂浦、東京湾アクアライン海はたる、等が楽しめます。ゴルフ場としては房洲カントリー、館山カントリーが近いです。以上長々と二寮のPRをさせて頂きましたが、是非とも小・中・高時代の同級生やクラブ活動のお仲間、ご家族、ご親戚、お知り合いを誘っての思い出づくりにご利用下さい。

平成27年度の総会では新装なった上野の東天紅にて、さる10月4日(日)に先生方、美汀会、墨汀会のご来賓各位をお迎えし、賑やかに開催されました。

本年は役員改選期にあたり清宮胖さん(高10)が副会長から顧問に、三木鉄也さん(高4)、宮本雄司さん(高30)のお二人が副会長に選出され、会長以下その他の役員全員が再選されました。

また11月3日には杉並公会堂にて第23回東京校歌祭が開催され、37名の会員が参加し校歌と応援歌を披露しました。又、役員諸氏には本年度も年間をととして、各種学校行事、常任幹事会、広報委員会、美汀会、墨汀会等の集まりに、積極的に参加し、活発に活動して頂きました。

結びに会員の皆様には墨水会の運営に深いご理解を頂き、会の運営に度々ご寄付を頂戴し真に感謝に絶えない次第で有ります。紙上を拝借し会員の皆様は厚く御礼申し上げます。

本年も母校のため会員皆様の格段のご協力をお願い申し上げます。



墨田川高校生の今

校長 上村 肇

四月一日付で着任した校長の上村肇（かみむら・はじめ）です。台東区で生まれ育ち、専門の科目は「政治・経済」です。

本稿では、墨田川高校の最近の状況について同窓生の皆さんにお伝えし、現役生へのさらなるご支援をお願いしたいと思います。

進学重視型単位制高校として

都立高校の募集定員の発表などで、普通科の墨田区の欄に墨田川高校の名前が載っています。これは、単位制の学校を学年制の学校と区別し、単位制の学校をまとめて掲載しているためです。

単位制は、第一年度、第二年度、第三年度と教科・科目を履修して単位を修得し、卒業の要件を満たすと卒業を認定するしくみの学校です。

都立高校には、進学重視型の墨田川、新宿、国分寺の三校の他に、多様な科目を履修できるタイプの単位制の高校もあります。

進学校では、国公立大学への進学を考え、「五教科七科目」をきちんと勉強します。進学重視型単位制高校では、この枠組みを前提に生徒が科目を選択していくことになります。

それでは、単位制の学校にはどんな有利な点があるのでしょうか。まず、同じ規模の学級数の学校に比べて先生が十一人多く配置されています。このことにより、多くの習熟度別授業

や少人数授業を行うことができます。例えば、「数学Ⅰ」の授業では、二つのクラスの八十人の生徒が習熟度別に三つの講座に分かれますので、二十六、七人で授業を受けることになります。

また、六時限までの授業が終わった後、七、八時間目に、単位認定する科目として自由選択の授業を置いています。「特講」という名称の難しい内容の演習を行う授業、理科の科目をもう一科目受験に使用したい生徒のための授業、「第二外国語」のドイツ語、フランス語の授業などが行われています。

このようにして、生徒の学力をより伸ばしていくこと、きめ細かく生徒を指導していくことに取り組んでいます。

入学選抜について

現在、都立高校には学区がなく、都内どこからでも受験できます。生徒の居住地は、足立区が二〇二人で最も多く、続いて葛飾区が一九六人で、江戸川区、墨田区、江東区の順で続いています。

単位制の高校には、男女別の定員がなく、選抜は性別にかかわらずに行います。今年度の全校生徒は、男子四二七人、女子五三四人で、どの学年も女子の人数が男子を上回っています。入試問題ですが、五教科のうち、国語、数学、

英語（リスニングの部分を除く）については、進学重視型単位制の三校が共同で、問題を作成して出題しています。問題は中学校学習指導要領の範囲で作成していますが、都教委が作成する問題よりも難しい問題になっています。

きちんとした学校生活

墨田川高校では、これまでの先生方の努力により、整然とした学校生活が行われています。

朝は、午前八時五分までに校門を通過するように指導しています。教室では八時十五分から朝学習が始まります。五階に教室がある一年次生も、こうすることで余裕ができ、遅刻はほとんどありません。朝練をやっていた生徒たちも、グラウンドを整備し、午前八時には誰もいなくなりません。

体育祭での「旗」の伝統も続いています。これまで夜間に集まって練習することが一部では行われてきましたが、今年度は生徒指導部と学年の先生が強く指導してこの「ヤミ練」をなくさせました。野放図にやらせるのではなく、高校生としての在るべき姿を指導しています。

この数年間の進学実績の向上は、教職員が生活指導に取り組んで生徒の生活がきちんとしてきたことによるもの大きいと考えます。

進学状況について

落ち着いた学校生活の中で、勉強への集中度を高め、進学実績が上がっています。平成二十七年春の卒業生では、大学進学率が八六％です。合格者の内訳では、国公立大学十六名、早慶上理五十一名、GMARCH八十七名となっています。三年次の四月に、生徒は「第一志望宣言」を行っていますが、卒業時には約四割の生徒がこれを実現しています。

墨田川高校のミッション

進学指導重視型単位制高校として、生徒の進学の希望の実現を果たすことが本校の使命です。さらに、本校には、旧制府立第七中学校の時代から、社会での指導的な立場の人材を育てることも期待されています。

「文武不岐」という言葉が言われますが、私は、着任してすぐの始業式で、墨田川高校のような、部活動や生徒会活動にも意欲的に取り組んで高潔な人格を形成している学校の卒業生にこそ社会で活躍してほしいと話しました。

墨田川高校は生徒の士気の高い学校です。下町の勤勉さが生活のエートスとして生きています。私が着任してつくづく感じたのは、墨田川高校が地元の方に愛されているということです。本校生徒の地域での活動をいくつか紹介します。

ICT教育推進校である墨田川高校では、今年度、「スマホ・ミーティング」の名称で、秋休みの期間に隣の第一寺島小学校に出かけて、高校生が小学生にスマホの安全な使用について指導しました。何紙かの新聞に記事が載りましたので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。吹奏楽部は、四月四日と十月四日（地藏坂商店会の縁日の日）に、地藏坂通りの広場でコンサートを開いています。

墨田川高校は、これからも、東向島の地で、地元の方の期待を担う学校として優秀を育てていきます。卒業生の皆様からの引き続きのご支援をよろしく願っています。



平成27年度

墨水会事業報告

平成26年総会(10月4日) ～平成27年10月2日

1. 第92回墨水会総会

平成26年10月4日 於 上野東天紅
一般会員50名、周年会員9名、現職員4名、旧職員1名、美汀会(P.T.A.)3名、墨汀会(P.T.A.のO.B会)3名の合計70名の方々のご出席をいただき、午後4時より総会が開催されました。井上会長の挨拶の後、名誉会長、来賓のご挨拶の後議事に入り、事業報告、会計報告、監査報告が行われ全て了承されました。最後に11年間の長きにわたり墨水会発展の為に尽力いただいた8代会長井上常一氏(墨田川3回)にかわり新会長に墨田川8回の泉妻秀一氏を選任してすべての議事を終了しました。

その後懇親会にうつり、墨田川18回の高田まさ江さんにより数曲のシャンソンが披露されました。又各期の活動報告等がなされたりと、おいしい料理を食べながら楽しいひと時を過ごし、最後に全員で校歌、応援歌を斉唱して解散しました。

2. 役員会

平成26年10月29日 於 大将
9名の役員が出席して、今後の寮のあり方について話し合いが行われ、例年通り開寮する方向で努力しようという事になりました。又学校に対しても生徒の利用について働きかけをしようという事になりました。又2016年発行予定の会員名簿について話し合いが行われ、従来通り発行する事を常任幹事会に提案する事になりました。

3. 第22回校歌祭

平成26年11月1日 於 杉並公会堂
墨水会は日比谷公会堂で行われた第1回より参加をさせていただきました。今回で22回目をむかえる校歌祭は、参加校も変り、

大学が参加したりして様変わりしています。が、今回も40名以上の人達の参加をいただき、校歌と応援歌をうたいあげました。

4. 第1回常任幹事会兼忘年会

平成26年12月10日 於 川風
忘年会を兼ねて、浅草のとうふ料理店川風にて、24名の出席者で開催されました。泉妻新会長の挨拶の後、総会、懇親会の会計報告等が行われ了承されました。又来年度の総会について話し合われ、その後忘年会にうつり楽しいひと時を過ごし散会しました。

5. 広報委員会

平成26年12月19日 於 同窓会室
第1回目の広報委員会が行われ、8名の委員が出席し、墨水会だより22号発行について話し合われ、(株)サラトに、A4サイズで16ページのもので、2千冊、2千5百冊、3千冊発行の場合の見積をとる事になりました。

6. 広報委員会

平成27年1月15日 於 同窓会室
7名の委員が出席し、今までに集まった原稿の校正を行い、又、(株)サラトの担当者杉田氏と墨水会だよりについて話し合いました。そして墨水会だよりと小冊子名簿の見積をたのみました。

7. 広報委員会

平成27年2月5日 於 同窓会室
6名の委員が出席し、原稿の校正と割り付けを行いました。又、2016年発行予定の会員名簿について、(株)サラトに依頼する事で、具体的な話し合いを行う事になりました。

8. 広報委員会

平成27年2月16日 於 同窓会室
4名の委員が出席し、(株)サラトの担当者より会員名簿発行についての説明があり、話し合いが行われました。

9. 広報委員会

平成27年2月20日 於 同窓会室
3名の委員で、墨水会だより22号の最終校正を行いました。

10. 広報委員会

平成27年2月23日 於 同窓会室
泉妻会長と(株)サラトとの間で、会員名簿発行の契約がとりかわされました。

11. 広報委員会

平成27年3月11日 於 同窓会室
5名の委員が出席して(株)サラトの担当者杉田氏より、会員名簿発行についての今後のスケジュール等の詳しい説明を受けました。

12. 役員会

平成27年4月27日 於 大将
13名の役員が出席して(一財)七星会の組織運営について、寮運営について、又総会、校歌祭、文化祭等について話し合われました。

13. 第2回常任幹事会

平成27年5月11日 於 会議室
31名の出席者で開催され、泉妻会長の挨拶の後、上村肇新校長の自己紹介をまじえたご挨拶があり、その後議事に入りました。総会については新しくなった上野東天紅で開催する事になりました。校歌祭は11月3日、杉並公会堂で行われるとの報告がありました。又会員名簿発行についての報告があり、最後に各期幹事に墨水会だより第22号や、配送用封筒、切手等が必要枚数配布され散会しました。

14. 役員会

平成27年6月13日 於 同窓会室
5名の役員が出席して(一財)七星会について話し合われました。墨水会として、(二財)七星会の理事として泉妻 井上、谷

澤、清澤の4氏を、又評議委員として海谷、難波、竹鼻の3氏を、監査に宮本氏を推薦する事になりました。

15. 第3回常任幹事会

平成27年7月3日 於 会議室
28名の出席者があり、泉妻会長の挨拶の後、校長先生より挨拶があり、ポート部、水泳部が今年もインターハイに出場する事になりましたとの報告があり、その援助金については前回の寄付金の残金をあてるとの事でした。

その後議事に入り、総会、校歌祭、文化祭、寮について話し合いが行われ、校歌祭の指揮を墨田川18回の鈴木氏にお願いし、又、文化祭については、半藤、佐野、宮部3氏の紹介をしながら、墨水会の宣伝を行う事になりました。寮については、7月22日より8月24日まで開寮しますのて利用していただきたいとの報告がありました。又、寮検討委員会を立ち上げる事になりました。

16. 広報委員会

平成27年7月3日 於 同窓会室
5名の委員が出席して、来年発行の会員名簿について、表紙の色、大きさ、写真、内容等について検討されました。

17. 第4回常任幹事会

平成27年9月2日 於 会議室
25名の出席者があり、会長挨拶の後、校長先生よりインターハイの報告がありました。ポート部については国体にも参加する事になったとの事でした。その後議事にはいり、総会、懇談会のアトラクションについては担当者に一任する事になりました。又、寮については検討委員会より提言があり、活発な討議が行われました。文化祭については、墨水会の展示場を玄関脇ホールで昨年同様行うとの報告があり、最後に各期の常任幹事に総会用往復葉書が必要枚数渡され、散会しました。

その他

七生寮視察
「平成26年10月8日」
谷澤氏・清澤氏で閉寮作業を行いました。

美汀会新年会

〔平成27年1月10日〕

役員8名が出席しました。

墨水会だより22号完成

〔平成27年3月6日〕

2,500部作り、309冊を本年度卒業生に配布しました。

学校運営連絡協議会

〔平成27年3月12日〕

清澤副会長が出席しました。

卒業式

〔平成27年3月14日〕

役員3名が出席し、泉妻会長が挨拶しました。

入学式

〔平成27年4月7日〕

役員3名が出席しました。新生入生に墨水会だより22号、寮案内を配布しました。

楽水寮視察

〔平成27年4月9日〕

井上氏・谷澤氏・清澤氏の3氏で楽水寮を訪問し、管理人網代氏と本年度の契約締結を行いました。

美汀会歓送迎会

〔平成27年5月23日〕

役員4名が出席しました。

七生寮視察

〔平成27年6月4日〕

海谷氏・井上氏・谷澤氏・清澤氏の4氏で寮を点検し、又星野リゾートと本年度の契約締結を行いました。

学校運営連絡協議会

〔平成27年6月5日〕

泉妻氏・清澤氏が出席しました。

(一財)七星会理事會評議員会

〔平成27年6月22日〕

泉妻氏・井上氏・谷澤氏・清澤氏(以上「理事」)・海谷氏・難波氏・竹鼻氏(以上「評議委員」)・宮本氏(「監査」)が出席し、今後の寮運営についての話し合いを行いました。又、今まで学校長が就任していた理事長職に今回は泉妻会長が就任しました。

文化祭打合せ

〔平成27年7月8日〕

生徒部の佐々木先生と谷澤氏が参加に向けての話し合いを行いました。

楽水寮視察

〔平成27年7月16日〕

谷澤氏・清澤氏で夏季休業中の宿泊者の確認、実施に向けた話し合いを行いました。

七生寮視察(開寮)

〔平成27年7月19日・21日〕

谷澤氏・清澤氏・加藤氏・竹鼻氏・友人の板垣氏が参加し、開寮に向けて清掃や草刈りを行いました。

七生寮視察旅行

〔平成27年8月23日・24日〕

例年行われている1泊旅行に15名の参加がありました。寮検討委員会が開催され、いろいろな意見が出されました。墨田川8回の竹村氏より120号の絵画2枚の寄贈があり、ホールに展示しました。

七生寮視察(閉寮)

〔平成27年8月24日・25日〕

田中氏・古川氏・丸山氏(以上墨汀会)・谷澤氏・清澤氏が参加し、布団整理など閉寮作業を行いました。

文化祭

〔平成27年9月12日・13日〕

11日(準備日)・・・谷澤氏・清澤氏・藤原氏・卒業生職員で前日準備を行いました。

12日・・・役員7名が参加しました。クジで当たった人に佐野真一さん、宮部みゆきさんの本を配ったり、半藤さんたちの本などを展示しました。

七生寮視察

〔平成27年9月14日〕

海谷氏・谷澤氏でトイレの壁面や、7・8号室の天井の修理について業者と打ち合せるため、現地視察をしました。又枯木伐採について星野リゾートの丸山さんと打合せを行いました。

東天紅訪問

〔平成27年9月28日〕

泉妻会長・井上顧問・谷澤氏・清澤氏・山内氏・竹鼻氏・加藤氏が参加し、東天紅の係の人と打合せを行いました。

平成二十七年『七高祭』に墨水会も参加

墨水会顧問 墨田川3回 井上 常一

学園祭である『七高祭』は、学校行事の三大行事、即ち体育祭・文化祭・合唱祭の内の一つとして、毎年九月中旬に開催されます。

文化祭は全校生徒が一年次生は演劇に、二・三年次生や部活動では様々な発表が行われます。

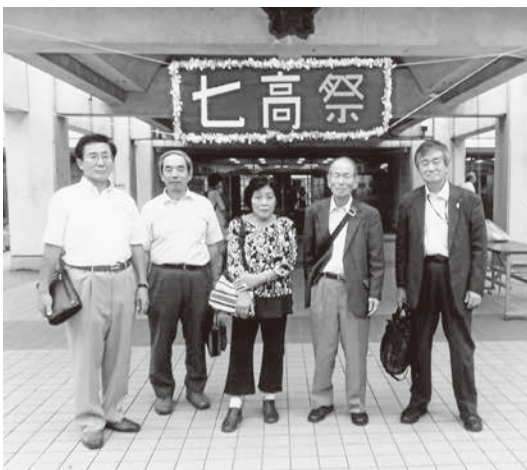
上村校長先生の文化祭冊子「無限大」冒頭のご挨拶には、「二・三年次生や部活動では、様々な発表が行われます。この発表では一年次生の演劇とともに、教養・文化を基盤とした活動の成果が示されることが期待されます。」

幅広い科目を履修する墨田川高校の生徒は、大きな視点で物事をとらえ、活動に生かしているはずで、「と以上のように述べられています。(一部引用)

墨水会では昨年から学校当局にお願いして、同窓会のPRと会が毎年行っている事業活動と学校が保有している一般財団法人が経営する二つの寮、長野県軽井沢にある「七生寮」と千葉県館山にある「楽水寮」の概要や利用案内、そして卒業生であるOBの社会に於ける活動状況などをPR致しました。

そして今年のテーマは、OB作家である半藤一利氏、佐野真一氏、宮部みゆき氏の著作の陳列とPR、そして三氏の作品(文庫)を百冊ほど用意してクイズとアンケートにご協力戴いた方々に本を一冊ずつプレゼント致しました。

開催された九月十二日、十三日の両日で用意した本はすべて回答された皆様に差し上げることが出来ました。



今まで同窓会の活動を現役生徒の皆様伝える機会が少なく、卒業後墨水会の会員として入会して戴くのですから、会がどのような活動を行い、墨田川高校の支援や行事の協力を行っているか、ご理解を戴く大変良い機会であると考え、我が会のOBで昨年まで校長を務められた柴田先生にお願いして伝統ある七高の文化祭に昨年参加させて戴くことになりました。

そんな次第で今年もかなりのPRが出来たと思っています。

終わりに今年も参加を許して戴いた上村校長先生、木村文化祭実行委員長、原田生徒会長、生徒部の佐々木先生はじめ諸先生方、飾り付けや撤収をお手伝い下さった生徒の皆さんに深く感謝申し上げます。真に有り難うございました。

次年度も是非参加させて戴きたいと思っています。

平成26年度 墨水会会計報告

開 始 残 高

平成26年7月1日

1 資産の部	(単位: 円)	
定期預金 (一般口座)	13,000,000	
〃 (寄付口座)	3,000,000	
普通預金 (一般口座)	6,853,859	
〃 (寄付口座)	1,543,102	
現金	71,048	
在庫品	808,500	
資産の部合計		25,276,509
2 繰越の部		
繰越金	25,383,087	
前期剰余金増加額	△ 106,578	
繰越の部合計		25,276,509

閉 鎖 残 高

平成27年6月30日

1 資産の部	(単位: 円)	
定期預金 (一般口座)	16,000,000	
〃 (寄付口座)	0	
普通預金 (一般口座)	5,224,915	
〃 (寄付口座)	3,904,519	
現金	166,069	
在庫品	0	
資産の部合計		25,295,503
2 繰越の部		
繰越金	25,276,509	
当期剰余金増加額	18,994	
繰越の部合計		25,295,503

監 査 報 告 書

墨水会定時総会議長 殿
平成27年10月3日

平成26年度墨水会収支計算書及び諸帳簿関係書類を監査した結果、その数字は正確であり、かつ正当であった。

各帳簿、領収書、証拠書類の保存整理も整然としてあったことを御報告申し上げます。

墨水会

会計監査 宮 本 雄 司
会計監査 石 井 温

収 支 計 算 書 (平成26年度)

平成26年7月1日から平成27年6月30日まで

1 収入の部	(単位: 円)	
科 目	金 額	摘 要
26年度卒業生入会金	2,472,000	309名×8,000円
名簿代(26年度卒)	1,236,000	309名×4,000円
名簿販売	12,000	3名×4,000円
寄付金	1,332,860	77名と2団体
利子	77,965	
当期収入合計(A)	5,130,825	

2 支出の部		
科 目	金 額	摘 要
墨水会会報費	515,952	2,500冊
総会懇親会補助費	243,394	70名出席
名簿小冊子代	170,432	350冊
校歌祭費	88,612	参加費、運送費
文化祭費	63,000	準備費 若手OBへの謝礼
通信費	129,455	切手代、郵送代
会議費	323,668	常任幹事会、広報委員会、役員会
寮関係費	3,800	七生寮視察補助
渉外費	75,600	美汀会、墨汀会関係
事務委託費	685,800	小荷田さん、谷澤さん給与・交通費
寄付金	2,000,000	(一財)七星会へ
雑費	3,618	事務費
当期支出合計(B)	4,303,331	

3 当期剰余金の部		
科 目	金 額	摘 要
当期収入合計(A)	5,130,825	
当期支出合計(B)	4,303,331	
当期収支差額(A)-(B)	827,494	
期首在庫品(C)	808,500	名簿
期末在庫品(D)	0	名簿
当期剰余金 (A)-(B)-(C)+(D)	△ 18,994	前期剰余金 △ 106,578

繰越金計算書

前期繰越金	25,276,509	
当期剰余金	△ 18,994	
次期繰越金		25,295,503

以上のとおり御報告申し上げます。

平成27年10月3日

墨水会 会長 泉 妻 秀 一
墨水会 会計 谷 澤 尚 樹



と伴奏を音楽部OBにお願いしたところ、伴奏は現役の生徒が来てくれることになりました。応援歌の伴奏に不安があるというので、前日学校で指揮者の鈴木憲康さん(18回卒)と調整し、当日も集合時間前に来て墨田川高校に割与えられた小ホールにて調整しました。歌、応援歌リハーサル、校

東京校歌祭について

東京校歌祭実行委員 墨田川17回 清澤 健一

平成27年度23回校歌祭は11月3日(文化の日)(火)杉並谷公会堂にて開催されました。3年ぶりに晴天で空気が澄みやすくなり過ごしやすかったです。各校参加者も大幅に増えました。参加校以外の方も30人ほど来場しました。

今回は指揮と伴奏を音楽部OBにお願いしたところ、伴奏は現役の生徒が来てくれることになりました。応援歌の伴奏に不安があるというので、前日学校で指揮者の鈴木憲康さん(18回卒)と調整し、当日も集合時間前に来て墨田川高校に割与えられた小ホールにて調整しました。歌、応援歌リハーサル、校



次回24回校歌祭は抽選の結果、同じく杉並公会堂で開催できることになりました。平成28年10月23日(日)です。多くの人の参加をお待ちしています。

今年の出演校は、昨年と同じ16高校と東大、一橋大、早稲田、慶応の4大学で20校でした。終了後合同の反省会が地下のグラウンドサロンの後半出演校が中心に68名が参加しました。豊多摩高校一校で70名が別の居酒屋で反省会をおこなったそうです。

い方の打ち合わせをおこない12時57分三番手で出演しました。横井正男墨水会副会長(13回卒)の学校紹介の後、応援歌と校歌を約40名で斉唱しました。

その後すぐに、荻窪駅そばの居酒屋で反省会を行いました。3時に後半の部が始まり大学の出演に参加する人もいたので自由解散しました。

第93回墨水会総会

平成27年10月3日 於 上野東天紅 墨田川15回 竹鼻 宏子



一般会員54名、周年会員4名、現職員3名、旧職員3名、美汀会6名、墨汀会3名、計73名の出席者で、新築された東天紅にて午後4時より総会が行われました。

泉妻墨水会会長、上村肇校長、小林美汀会会長の御挨拶が有り、その後議事へと移行しました。

事業報告、会計報告、監査報告と議事が進み、拍手をもって承認されました。今年は役員改選の年という事で、会長以下全員の紹介が済み、全員無事了承され、総会は終了しました。

その後懇親会となり、清澤副会長の元、声楽、マリンバの演奏などが披露されたり、各

期の紹介など、楽しい雰囲気の中、時が過ぎて行き、最後に校歌、応援歌を声高々にうたい、終了となりました。毎年の総会も、一抹の問題はあるものの、93回と続いている事に誇りを持ち100回、200回と続く事を願うものです。

尚、総会の式次第は墨田川32回石出(旧姓小倉)さんに毎年お願いしている事を御報告します。

新役員一覧

会長	泉妻秀一	(高8回)
副会長	大木善夫	(中20回)
"	梶原徳二	(高4回)
"	三木鉄也	(高4回)
"	難波直人	(高10回)
"	横井正男	(高13回)
"	谷澤尚樹	(高15回)
"	竹鼻宏子	(高15回)
"	加藤多恵子	(高15回)
"	清澤健一	(高17回)
"	小川浩平	(高18回)

副会長	高田まさ江	(高18回)
"	出羽邦夫	(高23回)
"	山内雅哉	(高30回)
"	宮本雄司	(高30回)
会計	谷澤尚樹	(高15回)
会計監査	宮本雄司	(高30回)
"	石井温	(高31回)
顧問	海谷利宏	(七高1回)
"	井上常一	(高3回)
相談役	内田博万	(高4回)
"	清宮胖	(高10回)

二寮検討委員会の報告



墨田川30回
山内 雅哉

本校では、財団法人七星会が千葉県館山市に「楽水寮」を、長野県軽井沢町に「七生寮」を保有し、在校生の課外授業の利用に供してきた。ところが、学校の方針により平成26年度から在校生の利用がなくなり、現在は墨水会会員とその関係者の利用が中心となっている。

ところで、これらの寮は、利用料金の点では近隣の宿泊施設に勝るものの、設備面で見劣りがする。そして「七生寮」については、利用が夏季の1か月半に限定されるという問題もある。そのためか利用者数が増えず、建物修繕費を考慮すると毎年赤字となっている。

そこで、これらを売却してその代金を学生のために活用すべきとの意見がある。他方、諸先輩から引継いだ寮を安易に売却するのではなく維持する工夫をすべきであるとか、一方を売却して1寮のみ維持しようという考え方もある。

本年度、当会ではこの問題に関する検討委員会を設置し、あるべき寮の姿についての議論を開始した。委員は、8月23日に七生寮を、11月14日には楽水寮をそれぞれ視察した。七生寮の年間利用者は87名。夏のピーク時に軽井沢で素泊まり1泊3,000円というのは大きな魅力で、数分歩けば星野温泉や塩壺温泉に入れる。ただし、暖房設備がなく、利用期間の拡大を図るには暖房の設置が必須。楽水寮も、同料金で通年利用ができるため、利用者は年間456名と多いが、食事処までは少し距離があり、また、七生寮と違って1クラス程度の人数が集まれる部屋がなく在校生の移動教室には少々使いづらい。

それぞれの寮について、設備等の改善点、利用促進を図る方法、学校の利用再開の見通し、売却した場合の代金の利用方法などの検討に着手したが、会員の皆様にもご意見をお寄せ頂き、更に議論を積み重ねたい。

学校運営連絡協議会について

墨田川17回 清澤 健一

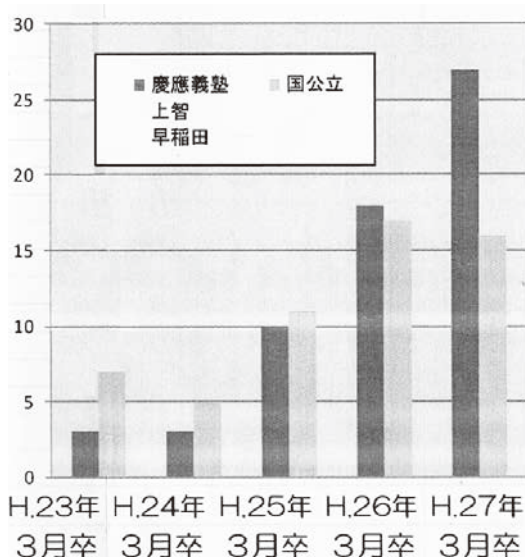
学校運営連絡協議会は、文科省の指導で学校運営に関して外部の意見であるPTAや地元の意見を聞いて学校運営に活かしていくことの目的で、平成11年に試行として始められ平成12年進学型単位制高校になった時正式にスタートしました。

平成27年度の学校運営連絡協議会はPTA、自治会、地元財界人、地元小、中学校、同窓会、教育専門家の委員と学校側からは、校長、副校長と教務、生徒指導、進路指導、総務の各部の主幹教諭から構成され、年3回開催されています。同窓会から泉妻会長と私の2名が参加しています。

墨田川高校では昨年、国公立大学や、難関私立大学の進学において好成績でしたので今年もさらに前進を目標に議論されました。

今まで通り生活を規則正しく行い、目標を持つて勉強、部活動を行えるようにするため朝学習を取り入れ、遅刻を無くし、挨拶をすることを続けることが効果あると確認されました。

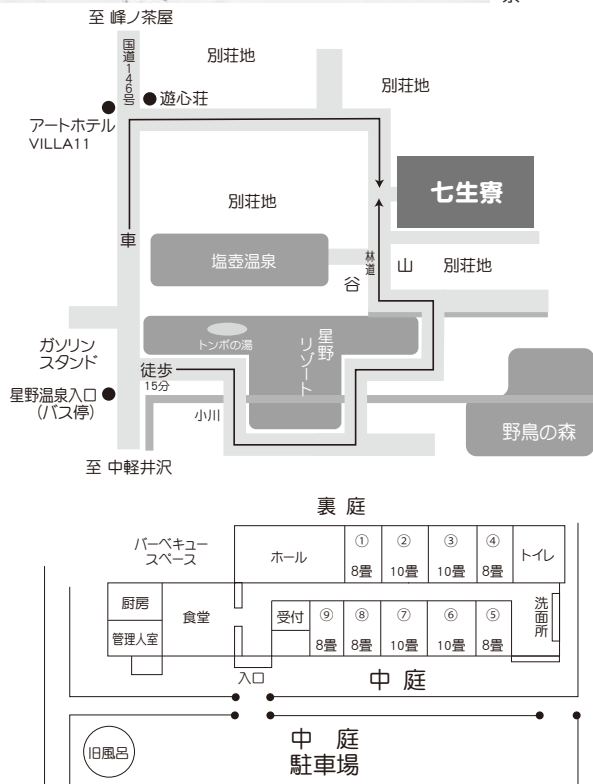
墨田川高校の評判は年々良く



なっています。学校説明会には中学生、保護者が増加しています。その案内をPTAが行っています。又入学生徒の成績も上がっているとこのからの高校生活を学校と家庭で連絡を取り合いながら生徒指導する先生方の肩にかかっていることをつくづく感じ、同窓会としても何か応援できないかと感じました。



冬の七生寮



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字赤岩2148
 電 車 東京駅より新幹線あさま号で1時間35分
 「軽井沢」駅下車、西武高原バス(草津温泉行)20分、
 又は中軽井沢駅よりバス10分、
 「星野温泉入口」より徒歩10分
 自 動 車 国道146号峰の茶屋方面
 アートホテルVILLA11
 城北信用金庫看板(遊心荘)右折1分

利用期間 7月19日から8月25日まで
申込方法 6月1日より7月15日までは学校にて予約
 受付を行います。

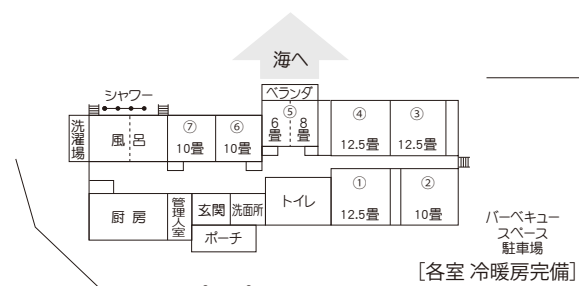
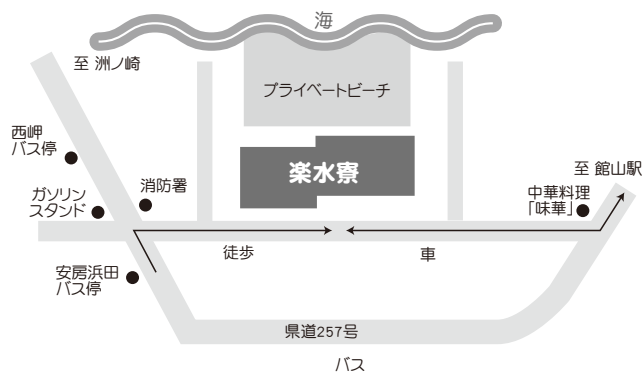
学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
 7月19日以後の申し込みは直接寮へ
 寮 受付 ☎0267-45-5672 (谷澤・清澤)

料 金 (一泊二食付き)
 大人(中学生以上) **5,000円**
 子供(小学生以下3才以上) **4,000円**
 素泊 大人 **3,000円**
 子供 **2,000円**
 休憩 **1,000円**(大人) **500円**(子供)

食事が用意出来ない場合がございますので、申込時に確認してください。
 お風呂は星野リゾートのトンボの湯が一般より安く利用出来ます。



海岸から見た楽水寮



〒294-0303 千葉県館山市浜田160
 電 車 東京駅よりビューさざなみ号2時間13分
 内房線「館山」駅下車、JRバスにて30分、
 「安房浜田バス停」より徒歩5分
 バ ス 東京駅八重洲口より急行バス館山行1時間45分
 自 動 車 バス通り(房総フラワーライン)洲崎方面
 中華料理屋(味華)脇右折3分

利用期間 原則として通年ご利用いただけます。
申込方法 7月16日より8月31日までは
 寮 受付 ☎0470-29-0127 (管理人 網代)
 その他の期間、及び6月1日より7月15日
 までの夏期予約は
 学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)

料 金 素泊
 7・8月 大人 **3,000円**(中学生以上)
 子供 **2,000円**(小学生以下3才以上)
 休憩 **2,000円**(大人) **1,000円**(子供)
 7・8月以外 大人 **2,000円**
 子供 **1,000円**
 休憩 **1,000円**(大人) **500円**(子供)

食事については、寮で注文してください。(お弁当・刺身の舟盛等)
 尚、庭にてバーベキューを行う事が出来ます。(バーベキューセッ
 ト使用料1台500円)又、厨房も利用出来ます。(使用料1日500円)

訃報

七中十八回生 昭和十九年三月卒

毛利 英三 氏



昭和二十七年より同期の坂本義雄氏と共に六十四年間墨水会常任幹事として同窓会並びに同期会の世話役として、母校発展のため務められた毛利英三氏には老衰のため去る八月二十四日惜しくも逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表する次第です。

なお今日までの長い間墨水会に深甚のご貢献とご協力を戴きましたこと真に有り難く、厚く厚く感謝申し上げます。

毛利英三氏は七中時代からバスケ

の選手で、中央大学でもバスケット部に所属され活躍されました。

その後七中で四年後輩であった法政大学でバスケの主将を務められた山田耕路氏と連盟のOB戦などで活躍され、墨水会では共に母校の発展のために努力されました。

毛利さんは母校を愛する精神がとても強く、ご自宅が母校近くであった事もあり、なにかにつけて母校の発展のためご尽力を戴き、先年には墨水会名入りのスポーツタオル数百本のご寄贈を頂戴しました。

ここに生前のご尽力に感謝申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

高校八回生 昭和三十一年卒

南 博 氏



南博君を偲んで！

昨年10月9日、同期で墨水会の幹事

として長いこと一緒に活動して来た南君が亡くなった。この2、3年体調が芳しくないんだよ！と色々各種行事で誘いの電話の際に聞いてはいたが、しゃべり方や声は何時もと変わらず、こんなに早く先に行ってしまうなどとは考えもしなかった。知らせを聞いて本当に驚いた。幹事としてはなかなか行事に参加しない同期生をどうやって呼び出すか等々よく話し合っていたことを思い出す。音楽の趣味が似ていてよく一緒に都内のライブハウスに通ったり、彼が好きでしょっちゅう早起きして参加していた地引網の話は何度聞いたか分からない。只、今度一度一緒に連れて行つてよと言いがら実現しなかったことが心残りである。誰からも本当に好かれていた南君だからこちらは寂しく成ったが、天国に行つても又皆と楽しく過ごして居るものと思う。

同期生 泉妻秀一



高校十回生 昭和三十三年卒

墨水会常任幹事

赤津 吉延 氏



赤津吉延氏は、肺炎のため、去る平成二十七年十一月二日に逝去されました。

同氏は昭和三十三年三月の卒業以来、今日に至るまで、同期のまとめ役として、又、墨水会の常任幹事として会計・校歌祭幹事等を担当し、尽くされてまいりました。

十年程前から、体調の不良をうったえておりました。今年に入り、入院され、治療に専念されておりましたが、残念ながら薬石効なく永眠されました。

慎んで哀悼の意を表すると共に、これまでの墨水会に対する多大なご貢献に深く感謝申し上げます。

合掌

七生寮視察報告

墨田川13回 横井 正男



昨年の夏も恒例の軽井沢七生寮視察が平成27年8月23日、24日に行われました。泉妻会長・海谷顧問・井上前会長以下15名が参加しました。

寮内ホールの壁面には、視察直前に高校第8回卒業の先輩竹村克男画伯より寄贈していた120号の大きな風景画2点が飾られていました。

軽井沢の歴史や現在の様子、七生寮の経緯については、井上常一前会長が「墨水会だより18・19号」で詳細に書いて下さっています。

賑やかな軽井沢銀座は旧軽井沢宿（軽井沢駅下車）にあります。七生寮がある地域は旧沓掛宿で、最寄り駅が中軽井沢駅（旧沓掛駅）です。寮が建設された90年以上

前はまだ淋しい原生林の中ではなかったかと思われまふ。しかし今では、星野温泉が星野リゾートを開発し、また別荘も増え、寮の前の幹線道路まで出ると自動車の往来が激しく、この時期の中軽井沢は避暑地の銀座ともいえるべき交通量の多さに驚かされます。先人たちは、よくぞこの地に後輩たちのための寮を建設して下さったと頭が下がる思いです。

七生寮は星野リゾートの一角にあり、表通りから200メートルほど林間に入る極めて閑静で、クーラーもない自然環境の中にあります。寮のすぐ下には塩壺温

泉があり、我々も1,000円で利用できます。寮へのアクセスは、本号の「七生寮紹介」にあります。この他に池袋駅前からバスで行く方法があります。夏季シーズンのみ運行している西武高原バスの池袋発「西武軽井沢営業所行」に乗ると、乗り換えなしで終点に3時間余で到着。ここで下車し、下りの坂道を10分程歩くと七生寮に着きます。私は今回、集合時間に併せて、このバスを利用しました。

夕刻、寮運営についての話し合いでは、今年も昨年に引き続き生徒たちの林間学校利用がなかったため、運営への支障が懸念されましたが、クラブの合宿、OBの利用が少しずつ増え、維持可能との報告がありました。来年以降も、生徒たちの部活動等への利用を促進すると共に、OBたちの更なる積極的な利用を呼びかけることになりました。その後の懇親会は和やかに賑やかに夜遅くまで行われました。

翌日は、朝食後に散会。個々のスケジュールに合わせて寮を出発しました。軽井沢駅前までは、星野リゾートより便利なシャトルバスが出ています。



平成27年度墨水会総会の開催、誠におめでとうございます。

墨水会の皆様には、泉妻会長をはじめとして日頃より大変お世話になっております。

本年5月の美汀会歓送迎会に、墨水会より井上顧問と各副会長様にご来賓として出席していただきました。私は歓送迎会のあいさつで「私のふるさととは新潟県長岡市です」と自己紹介をさせて頂いたいただきました。

そのあと「墨田川高校のOBに長岡と縁の深い人がいるのです」と教えていただきました。そのときは緊張して気がつかなかったのですが、9月の七高祭でそのことがわかりました。

私のふるさと長岡と縁の深い人というのは作家の半藤一利先生のことです。半藤先生といえは、この夏大ヒットした映画「日本のいちばん長い日」の原作者です。半藤先生の先祖は越後長岡藩の藩士、半藤先生ご自身も戦時中、長岡に疎開されておりました。

東京から見れば大変な田舎町ですが、このように墨水会の方たちから私のふるさとを知っていただけけるのはとてもうれしいです。さて少しの時間、今どきの高校生と親についてお話をさせて頂きたい。

子どもが高校生になりますと、大人も驚くような高度で豊富な知識を持ち始めます。正などといった社会で起きている問題を、子どもに質問されて大変驚くことがあります。

東京の名門墨田川高校の生徒は、この点は本当にすごいと思います。急に理屈っぽくなるとか、親や

ご挨拶（墨水会総会にて）

美汀会会長 小林 久志

社会に対する批判的な眼も鋭くなっています。

「昔は、あんなに素直でかわいい子だったのに」と落ち込んでしまう親御さんも少なくありません。

高校生は思春期のど真ん中입니다。

わが子の思春期は親にとっても自分の生き方を見つめ直して、子どもと一緒に成長できる絶好の転機、そして家族の絆を強くするチャンスであると思います。

皆様は、自分たちの高校時代と比べて世の中が一番大きく変わったのは何だと思えますか。

私が一番変わったと思うのは、日常生活の中でいつでもどこでも携帯電話やスマートフォン、パソコンを使うこと。

そしてインターネットが急速に発達し、便利で役立つものから有害なものまで、子どもたちは膨大な情報にさらされていることだと思えます。

今の高校生のほとんどは、携帯電話やスマートフォンを持っています。便利な反面、安易に利用した結果、犯罪や詐欺に巻き込まれてしまったという事件も後を絶ちません。

もうひとつ、変わったことの例をあげれば、小さくて軽い電子辞書がひとつあれば、重たくて分厚い国語辞書や英語辞書がいらない便利な時代になりました。しかし、便利になった反面、すぐに答えや結果を求めるようになり、面倒なことは避ける傾向にあると思います。

思春期の子どもたちが「自分を最も認めてほしい相手」と言ったら、親や教師ではなく、同世代の友だちということも驚きます。

私の時代、親が高校に来るのは入学式か卒業式ぐらいです。親が学校に来るのは、とても恥ずかしいことだと思っていました。それは今の高校生もまったく変わりません。

しかし、私たち親も時代の変化と流れに応じて、子どもの教育について学んでいかなければならぬことが多くなってきました。私がPTA活動の中で感じるのは、時代を反映する現実に、子どもたちも直面していることです。

今の高校生は生まれる前から不況です。未来への希望が見つけにくい社会になっていきました。

親の経済状況の悪化や、学校での複雑な人間関係など、生々しい現実が、子どもたちの心に大きな影響を与えていることも親は知らなければなりません。

墨田川高校は、7年後に学校創立100周年という大きな節目を迎えます。

在校生は100周年を迎えるとき、ほぼ全員が社会人になっています。

社会人になっても皆様のようには永遠に母校を愛し、卒業生であることを誇りに思い、元気で立派な人材に育ってほしいと思います。

墨水会の皆様、どうか墨田川高校に在学中に「勉強も部活動も絶対負けるな、しっかりがんばれ」といつまでもいつまでも母校を応援してください。

話が長くなりました。皆様のご健勝と墨水会の更なるご発展を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

同期会・クラス会

七中20回 七生会 第四十回総会と現況

大木 善夫

昭和五十一年四月四日、国会議事堂近くの尾崎憲政記念館・霞ガーデンにて七生会第一回総会を開催してから、今年平成二十七年は七生会発足四十周年目を迎えた。

その上七中卒業七十年目、更に私共の大半が米寿の目出度い年、所謂トリプル記念年である。

七生会は、発足と同時に会則を作成し、毎年欠かさず、会則通りに正式な総会を、その都度の議案書で開催し、ここに平成二十七年五月三十日正午、芝パークホテルにて七生会第四十回総会の開催となった。

夫人同伴五組、亡き会員の奥様三名含め合計三十名定刻に開会。昨年度より大方の要望により、懇親の時間を充分に取り、議事は出来る限り簡素化した総会である。

まず、当日までに会で把握している物故者百二十名の霊に冥福を祈り黙祷を捧げて後、千葉県松戸より、歩行補助器具持参で奥様の介護兼付き添い同伴で駆けつけて来た横張龍一会長の挨拶で会は開始となり、会計報告、行事・事業報告等の議案は全て原案通り可決承認された。

懇親会に入り、ホテル自慢の北京料理に舌鼓打ちながら和気藹々の賑やかな宴会が始まった。

暫く歓談中緊急提

案があり、七生会第四十回総会を記念して、母校の墨水会に何か寄与したいとの発言あり、本日の総会参加者有志から寄付を募り、僅かな金額ではあるが寄付をさせて頂いた。

宴たけなわ金子一

男幹事の奥さんと応援で同行してきた同僚の、プロ顔負けのマジックショーが始まった。会員の参加も加わり歓声の中、時の移るのも忘れ決められた二時間半は瞬く間に経過した。

全員で校歌斉唱、記念写真撮影後、大々三本にて、名残惜しみながらお開きとなった。

ここで、また元気で来年逢いましょうと別れるのが普通一般である。が、私共には次の予定が待っている。

早速六月には、七五会(囲碁)、ボーリング会の開催等これから夏から秋に掛けて各部会で毎月何らかの会合があり、夫々が逢いまみえ楽しみながら、親交を深め、更に十二月初旬には全体で忘年会、更に翌年一月三日には、歴遊会主催の七福神詣でが予定されている。

昭和二十年私達二十期卒業時は、卒業式後も昼夜間交替での勤労動員、下町大空襲、そし



第40回七生会総会(H27.5.30)
会場 芝パークホテル2階宴会の間

て神奈川県瀬谷工場にての終戦などお互いの連絡など全く出来なく、バラバラに、上級学校に実社会へと別れて行った。

それから三十年母校、墨水会との連絡はおろか、旧友達の消息など一切判らず文字どおりの空白期が生じていた。そこで七生会の発足後は、その空白を埋めるべく可能な限りの会合を行っている現在の私達である。

墨田川6回 A組クラス会

矢後 長洋

傘寿を祝うクラス会を現役で働いている

村田公さんの発案と「江戸に生きる会」代表宮澤君の企画で、十一月十一日、十二時三十分からスカイツリータウン・ソラマチ三十階にあるレストラン、イザール・シェウチェロで、開催しました。男性十三名、女性六名、計十九名の参加で傘寿まで無事であったことを喜びました。食事中にアトラクションとして、音楽グループ、ヴォーチェ、ローザ代表田中英明さんのテノールでサンタルチア、花等の四曲を堪能。また最後に、全員で校歌の一番と四番を熱唱し、解散となりました。場所が、場所だけあって、また天候にも恵まれて景色は抜群でしたが、期待に反して母校の校舎は見え、これはスカイツリーの展望台の方に譲らざるをえないのかと思いました。

ところで、喜寿の祝



いのクラス会を三年前、母校の会議室で開催しました。(墨水会ホームページ参照)また、卒業四十周年のクラス会を平成五年三月二十七日に担任の中村賢衛先生ご夫妻を招待して、宇佐美温泉で開催しました。その時、作成してあったアルバムを当時の宮田幹事が持参してくれまして、参加者は、懐かしむやら、感心するやら大喜びでした。

今回は、米寿を祝う会とし、「東京ステーションホテル」で開催しようとの声が出ていましたが、さて何人の参加が期待できるのか、楽しみにしたいと思っています。

墨田川13回 同期会報告

山崎 宏次

卒業以来、第十三回目の同期会を、平成二十七年十月十七日(土)午後四時より錦糸町の「東武ホテルレバント東京」に於いて開催しました。

卒業後は、同期会を四年に一度開催してきましたが、「開催時期を間隔あけずに開いて欲しい」との要望が多くなり、数年前から二年毎に行っています。

今回は、全七クラスで七十四名の出席がありました。クラス幹事の紹介・挨拶があった後、クラス毎に全員登壇し、各



自の近況を報告しました。

会場には各クラスのテーブルを設けましたが、時間の経過と共に他のクラスのメンバーや、クラブ活動とともにした友たちとも大いに旧交を温め、大変な盛り上がりになりました。予定の時間は瞬く間に過ぎてしまいました。最後に元気な校歌斉唱で本会はお開きになりました。

名残は尽きず引続き、同所に於いて二次会にうつりました。カラオケも入り楽しいひと時を過ごし、午後八時半に「次回も元気に再会できるよう」祈りながらのお開きとなりました。次回は二年後の平成二十九年の予定です。

墨田川13回

G組クラス会

幹事 戸張 隆

昭和36年卒業、G組のクラス会を去る平成27年4月11日(土曜日)に開催しました。

今年は、4月とはいえ風の冷たい日が多かったのですが、桜の花はいつものように咲き、いつものように散っていました。当日は小雨模様でしたので、花見を兼ねてとはいきませんでした。みんなの熱気で寒さは感じませんでした。

出席者は9名、他に7名より手紙・電話・メールで「出席したいのですが、都合がどうしてもつかない」旨の連絡がありました。何人かは未だ現役で仕事をしているとのこと、凄いなと思うと同時に羨ましくも感じられました。

当日は、幹事役の私が江東区の「深川江戸資料館」のボランティアガイドをしているので、同館に午前11時に集合。天保時代の深川佐賀町を忠実に再現した町並みを、私の案内で楽しんで頂きました。その後、近くにある都指定名勝「清澄庭園」で、泉水に映る歴史と名石と若葉で心の洗濯をしてから、いよいよ待ちに待った飲み会です。会場は、江戸時代から続く深川名物「アサリ丼」の老舗割烹料理店で、盃を重ねつつ、学生時代の思い出話、現在の自分の健康状態、お世話になった社会への奉仕活動(ボランティア)などなど話は尽きず、あっという間に2時間が過ぎ去りました。

最後に、少なくとも今度の東京オリンピックまでは、本日の出席者が一人たりとも欠けることがなくこのクラス会が続くよう、それから本日出席できなかった方々とも次回は共に美味しい酒を酌み交わせることを願い、名残を惜しみつつ午後3時、再会を誓いながら散会となりました。

(今回のクラス会幹事・戸張隆君は親子3代に渡る深川生まれ、深川育ちです。)



墨田川15回

C組クラス会

保泉 渥

有名な川柳「クラス会、会えて良かったマドンナに」。平成27年11月21日晚秋の1日、懐かしい浅草寺近辺の有名な豆腐料理店にて2年ぶりに16人が集った。

70歳をドーンと超えて数人の物故者がいるのに、これだけ集まるのはすごい。マドンナ陣には足腰が「痛い」方も多いが、寿命の短い男族は元気、ただ光君や残っている白髪が殆ど、当然だけどもね。酒も回り、恒例の各自の近況報告。60代の時はヤジが飛び交う中「あれした、これした」と活動報告があつたが、70代になると「何もしてません」と静かな雰囲気になつた。変わり種に「坊さん」になつた仁がいたが、これがまた「大の生臭坊主」、大酒くらって予算を何万円もオーバー、幹事を困らせた。また2年後何人が集えるか、マドンナには来てほしい、いつまでも青春時代を懐かしんでいた。



墨田川17回

卒業50周年同期会 初めてで最後になるかも

清澤 健一

昭和40年高校17回卒業同期会は平成27年11月20日(金)午後2時から上野東天紅で64名が参加しました。

毎回クラス会を行っているところが6クラ

ス、まったくとほとんど行っていないが2クラスと様々でしたが準備に1年かけました。

3年間クラス替えが無く、他のクラスとつながりは、小、中、大学校が同じ、部活、合同授業以外は無く、面識が無い状況が大半でした。クラス会をよくやるころほど、同期会は必要がないという意見が多く出ていました。

2年先輩の同期会を見て、我々も何とか行おうと、常任委員会の2人が意見が合い、そのクラスの有力な女性と相談して、その人の脈をたより、数名のクラスの幹事が集まり、残りのクラスは名簿より電話して何とか全クラスの幹事を出すことができました。6回ほど幹事会、メールでの細かいやり取り、墨水会だよりに同封して開催通知の送付、全クラスの名簿の作成などを行いました。

当日の同期会では思い出の写真等をプロジェクターで紹介するなど和やかに進めることができました。2次会もクラスごと様々でしたが、4クラス合同で行ったところもあります。

今回、井上前会長の株主優待券が利用できて7,000円の会費にて開催できたことを感謝しています。

司会者が最初で最後になるかもしれない同期会と初めに言いましたが、終わるころには連帯感が強くなり、次回はもうするの？



平成27年度(第67回生他)大学・短大合格状況

墨田川45回 吉田 泰

国公立大学

合格者人数

大学名	現役	過年	計
群馬大	1	0	1
筑波大	1	0	1
茨城大	1	0	1
埼玉大	5	0	5
千葉大	2	0	2
東京学芸大	1	0	1
横浜国立大	1	0	1
新潟大	1	0	1
山梨大	1	0	1
埼玉県立大	1	0	1
首都大学東京	1	0	1
国公立大学計	16	0	16

大 学 校

合格者人数

大学校名	現役	過年	計
防衛大学校	0	1	1
海上保安大学校	0	1	1
大学校計	0	2	2

私 立 大 学

合格者延べ人数

大学名	現役	過年	計
早稲田大	14	0	14
慶應大	3	0	3
上智大	10	0	10
東京理大	24	4	28
上記4大学計	51	4	55
関西学院大	2	0	2
立命館大	1	0	1
上記2大学計	3	0	3
明治大	18	1	19
青山学院大	15	0	15
立教大	12	0	12
中央大	6	3	9
法政大	27	1	28
学習院大	9	1	10
上記6大学計	87	6	93
成蹊大	10	0	10
成城大	6	0	6
武蔵大	8	0	8
明治学院大	11	0	11
上記4大学計	35	0	35
日本大	50	1	51
東洋大	67	2	69
駒澤大	15	0	15
専修大	10	1	11
上記4大学計	142	4	146

大学名	現役	過年	計
獨協大	31	0	31
千葉大工	21	0	21
東京電機大	14	0	14
文京学院大	14	0	14
帝京大	13	1	14
東京家政大	13	0	13
芝浦工大	12	1	13
国土館大	12	0	12
國學院大	11	0	11
亜細亜大	9	0	9
聖徳大	9	0	9
創価大	9	0	9
大東文化大	9	0	9
大妻女子大	8	0	8
産業能率大	7	0	7
東京農大	7	0	7
目白大	7	0	7
帝京平成大	6	1	7
昭和女子大	6	0	6
文教大	6	0	6
東海大	5	1	6
拓殖大	5	0	5
東京経大	5	0	5
武蔵野大	5	0	5
東京工科大	4	2	6
工学院大	4	0	4
神田外語大	4	0	4
神奈川大	4	0	4
跡見学園女子大	4	0	4
東京都市大	4	0	4
明星大	4	0	4
北里大	3	3	6
日本獣医生命科学大	3	1	4
二松學舎大	3	1	4
清泉女子大	3	0	3
麗澤大	3	0	3
実践女子大	3	0	3
順天堂大	3	0	3
大正大	3	0	3
東京成徳大	3	0	3
東邦大	3	0	3
共栄大	2	0	2
昭和音楽大	2	0	2
東京女子大	2	0	2
姫路獨協大	2	0	2
玉川大	2	0	2
桜美林大	2	0	2
女子栄養大	2	0	2

大学名	現役	過年	計
城西大	2	0	2
東京医療保健大	2	0	2
東京工芸大	2	0	2
武蔵野美大	2	0	2
立正大	2	0	2
和洋女子大	2	0	2
酪農学園大	1	1	2
江戸川大	1	0	1
秀明大	1	0	1
城西国際大	1	0	1
女子美大	1	0	1
白百合女子大	1	0	1
多摩美大	1	0	1
東京有明医療大	1	0	1
東京薬科大	1	0	1
日本女子体大	1	0	1
日本赤十字看護大	1	0	1
日本体育大	1	0	1
日本保健医療大	1	0	1
フェリス女大	1	0	1
武蔵野音大	1	0	1
明治薬科大	1	0	1
和光大	1	0	1
学習院女子大	1	0	1
駒澤女子大	1	0	1
高千穂大	1	0	1
昭和大	1	0	1
千葉商大	1	0	1
帝京科学大	1	0	1
東洋学園大	1	0	1
明海大	1	0	1
麻布大	0	1	1
杏林大	0	1	1
私立大学計	671	28	699

短 期 大 学

合格者延べ人数

短大名	現役	過年	計
青山学院女短大	3	0	3
東京家政短大	3	0	3
創価女短大	2	0	2
女子栄養大短大部	1	0	1
立教女学院短大	1	0	1
大妻女短大部	1	0	1
短期大学計	11	0	11

現役の欄は平成27年3月に卒業した第67回生の実績です。過年の欄はそれ以前に卒業した者で、連絡のあったもののみ計上してあります。

平成27年12月時点での
現3年次生(第68期生)の
主な進路状況

これまでに指定校推薦、公募推薦、AO入試等で、次の大学・短大に合格者が出ています。

大学入試センター試験(1月16日・17日)後、私立大学の一般入試、国立大学の個別試験が始まりますので、合格者数はさらに増えていきます。(カッコ内は複数合格者がいる学校の人数)

◎国立大学(計4名)

千葉大学 文学部(2)
首都大学東京 健康福祉学部
システムデザイン学部

◎私立大学(計46名)

慶應義塾大・上智大(3)・東京理科大(2)・青山学院大・学習院大(4)・立教大・中央大(2)・法政大(3)・順天堂大(4)・成蹊大(2)・武蔵大・北里大(2)・東邦大・日本大(4)・東洋大(2)・学習院女子大・共立女子大・昭和女子大・日本女子大・東京家政大(3)・杏林大・国土館大・日本体育大・日本獣医生命科学大・東京工科大・東京成徳大

◎大学校(計1名)

防衛大学校 理工学部

◎短期大学(計1名)

桐朋学園芸術短期大学

平成27年度 部活動報告

墨田川32回 伊藤 静市

運動部19部・文化部18部のクラブが「文武不岐」の基、活発に活動しています。

運 動 部

サッカー部	・関東高校東京都大会 ・高校総体都予選	ベスト32 ベスト16	女子硬式テニス部	・新人戦	3回戦進出
ソフトテニス部	・新人大会	4回戦進出	男子硬式テニス部	・東京都高校選手権	出場
ダンス部	第16回高校生ダンスコンテスト	出場	柔道部	・関東大会一支部予選 ・学年別一支部予選 ・一支部新人戦	団体 9位 団体 3位 団体 5位 新人 5位
女子バスケットボール部	・春季大会	2回戦進出	水泳部	・インターハイ ・東京都高校選手権 ・東京都秋季大会	個人 5種目入賞 リレー 2種目入賞 学校対抗 6位 個人 5種目入賞 リレー 2種目入賞 個人 2種目優勝 他7人入賞 2種目入賞
男子バスケットボール部	・関東予選 ・都立校大会 ・新人戦支部大会	ベスト64 3位 ベスト8	卓球部	・インターハイ予選 ・全日本ジュニア予選	シングルス 4回戦進出 4回戦進出
バドミントン部	・インターハイ予選 団体	2回戦進出	軟式野球部	・東京大会 ・秋季関東大会都予選	ベスト16 ベスト16
女子バレー部	・春季リーグ戦	2回戦進出	陸上部	・東京都学年別大会	3年男子 1500m 優勝 3年女子 1500m 優勝 1年男子 1500m 優勝
男子バレー部	・都立校大会	2回戦進出			
ハンドボール部	・台東区民大会	準優勝			
ボート部	・関東大会 ・インターハイ ・国体	女子シングルスカル 4位 女子シングルスカル 準々決勝進出 女子シングルスカル 準決勝進出 女子舵手付クォドルプル 4位 (東京選抜の一員として)			
	・関東選抜	女子舵手付クォドルプル 出場			
剣道部	・春季剣道大会 ・墨東杯争奪剣道大会	男子 2回戦進出 女子 ベスト16 男子 3位			

文 化 部

演劇部	・城東地区大会Aブロック	出場	茶道部	・高文連優秀校東京公演 ・東京大茶会 ・全国高校生茶道文化フェスティバル	出場 出場 東京代表
音楽部	・NHK全国音楽コンクール都予選B	銅賞	美術部	・中央展	出展
写真部	・東京都高校文化祭地区大会 ・東京都高校文化祭中央大会	優秀賞 2名入選	文芸部	・東京都高等学校文化祭中央大会	参加
吹奏楽部	・東京都高校吹奏楽コンクールA組 B1組 ・日本管楽合奏コンテスト全国大会	金賞 金賞 優秀賞	上記以外運動部はソフトボール部、文化部はパソコン部、フォークソング部、英語部、家庭部、華道部、生物部、天文部、物理化学部、放送部、邦楽部、漫画部があります。		

第19回 寄付金一覧

平成27年1月～平成27年12月末日

会計 墨田川15回 谷澤 尚樹

今回は八十三名の方々と三団体より百二十六万九千九百六十二円のご寄付を頂戴いたしました。寄付金合計が六百二十八万四千九百四十二円になりその中より二百万円を一般財団法人七星会に寄付いたしました。今後の二寮の維持・管理につきましては、寮検討委員会を立ちあげ話し合いを行っておりますので、今後共宜しくお願ひ申し上げます。

府立第七中学校 第12回	古川 浩	都立第七中学校 第18回	三宅 高明	都立第七中学校 第20回	野尻 富夫	大木 善夫	七生 会一	伊藤 信夫	尾内 善夫	中井 更夫	江口 卓之	荒川 博之	牛山 淳一郎	秋元 健一	斎藤 俊男	岡田 淳男	都立第七高等学校 第1回	宮崎 喜一	
大居 堅一	長谷川 鉄夫	伊藤 一郎	鈴木 正男	森 操七郎	上村 恭平	都立墨田川高等学校 第3回	和久津 毅美	須藤 健一	井上 常一	梶原 靖夫	木塚 勝二	兵頭 元紹	島村 義次	浅川 博也	内田 鐵也	三木 鐵也	釜井 節夫	小野 新平	宮田 雄次
竹村 克男	大谷内 市五郎	泉妻 秀一	内田 忠男	鈴木 宏吉	松本 宏征	崎山 義正	宇佐美 恒明	柴田 シゲ子	永井 光江	吉田 洋一	関 亨	比留間 光子	寺崎 浩子	市村 史子	中村 博昭	小原 千恵子	中村 桂一	田中 満雄	越智 信夫
黒川 保太郎	林 良雄	長谷川 瑞枝	三宅 正高	山澤 一喜	富田 角次郎	木場 藤一郎	田篠 達郎	永井 康子	加藤 多恵子	内藤 和子	3年 C組	佐野 裕子	高橋 三千男	桜井 隆志	鶴田 耕一	吉川 恵則	柏原 保子	宮本 徳次	
第21回	佐藤 正	第29回	和田 典子	第30回	篠塚 由美子	村上 よう子	倭 康雄	宮本 勇人	(株)東京コカコーラボトリング	旧職員	有賀 康修								

「墨水会だより」

第23号

発行：墨水会事務局
 発行人：泉妻 秀一
 編集人：難波直人
 墨田川高校内墨水会事務局
 〒131-0032
 墨田区東向島3-34-14
 電話：03-3611-2125(代)
 事務局代表：谷澤 尚樹

編集後記

2016 (平成28)年

「墨水会だより第23号」

本年も「墨水会だより」第23号を発行することとなりました。毎号会長、校長先生、先生方はじめ会員の皆様の方々には原稿のお願いなどなにかとご協力いただき広報一同感謝いたしております。

今後も会員の皆様のご期待にそう様誌面の充実を目指してがんばりたいと思っておりますので是非本誌に対するご意見、ご希望、ご提案等ございましたら広報委員会までお寄せください。

墨田川10回 難波 直人